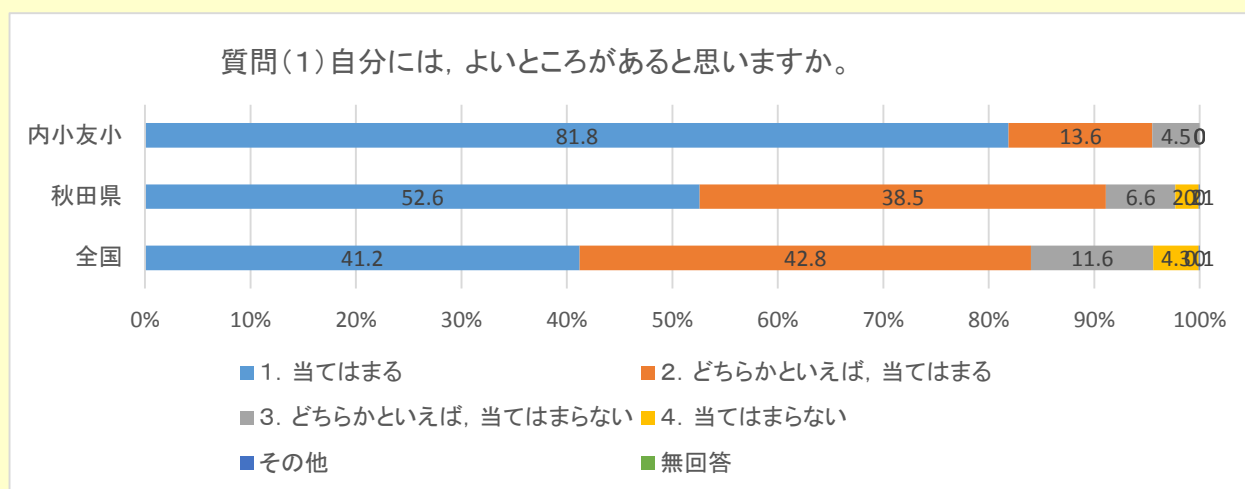


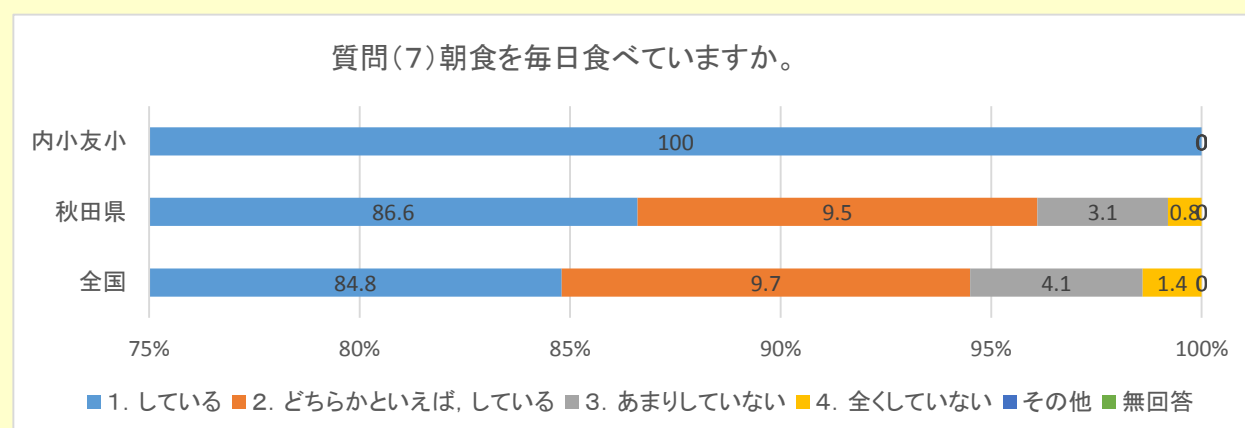


全国学力・学習状況調査からみえること（Ⅲ）～児童質問紙～

全国学力・学習状況調査では、生活習慣と学習状況や学習意欲との相関を調べるために、生活習慣や学習意欲について児童からアンケートを採っています。ここでその項目の全て（62問）を紹介することはできませんが、一部を取り上げて紹介します。

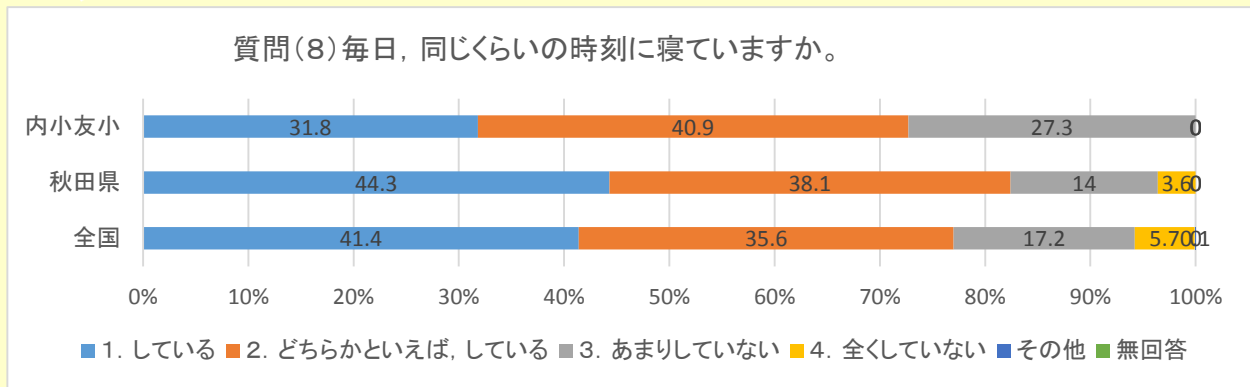


これは、今年度の重点指導事項である「自己有用感に裏付けられた自尊感情の醸成」に関する質問ですが、自分によいところがあると答えた児童が81%を越えていることを大変嬉しく思いました。担任が、子どもたち一人一人に「あなたのよさ」を伝えてきた成果であると思います。今後も、子どもたちのこだわりや努力を見取り認めるという共通実践事項を徹底してまいります。

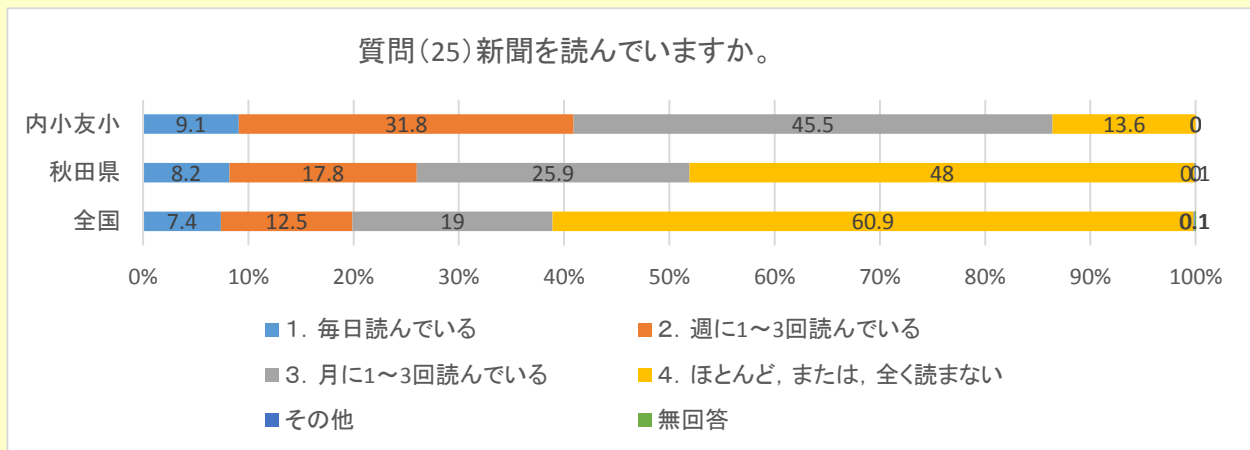


本校の6年生は、全員がきちんと朝ごはんを摂っています。朝ごはんが脳の発達に密接に関わっていることについては、「学校報No.9」でお知らせしたとおりですが、「家族揃って朝ごはん」ということが、内発的な意欲に大きくかかわるといことが最も大切な点だと思います。

本校の子どもたちは、素直で何事にも意欲的に取り組めると言われますが、きちんと朝ごはんを食べているということが一つの裏づけとなっているとも言えるのではないのでしょうか。「家族揃って豊かな朝ごはん」に心がけてくださっていることをありがたく思います。 (裏面に続く)



生活に関するアンケート項目の中で、唯一、県や国と比べて低い割合を示したのがこの項目でした。「決まった時刻に寝ていない」と答えた児童の割合がやや高いのが気になります。学校報No.8にも書きましたが、成長ホルモンが分泌されるゴールデンタイムは夜の10時から短い時間だけです。決まった時間に寝ていないという理由については詳しく調べてみないと分かりませんが、「早寝・早起き・朝ごはん」の早寝というところに、やや課題がありそうです。



新聞を読むということと学力には正の相関関係があることが分かっています。新聞をよく読む児童・生徒の方が、正答率が高い傾向にあるということです。本校の児童は、県や国と比べてみると、新聞をよく読んでいると答えた児童の割合が高くなっていますが、半分以上は、月に数回読む程度か、あまり読んでいないということが分かります。新聞の文章は、「5W1H」が的確に表現されており、分かりやすい良い文章です。それを読むことによって、正しい文章を書く力が付いたり、言葉に敏感になり、日常の中で生きて働く言語力を身に付けたりすることができる、とも言われています。また、コラムなども、社会には多様な見方・考え方があることを知り、今までとは違った視点から物事を見たり考えたりして自分の考えを深めるヒントになります。新聞に書かれていることをご家庭で話題にしてみてもいいのではないでしょうか。(次号に続く・・・あと1回だけ)

第一回学校評議員会

5日、学校評議員の皆さんをお招きして「第一回学校評議員会」を行いました。

授業参観の後、本校の経営説明、第一回学校評価の結果についての説明をし、意見交換を行いました。意見交換では、主に「第一回学校評価」の資料を基に、ご意見をいただきました。

その中で、今の子どもたち同士の関係性（特に先輩と後輩）は昔と違い、子どもたち同士での教育作用が低下しているのではないかと、という話が印象に残りました。本来、子どもたちの中で解決されるべき問題に、親や学校が関わってしまっているのかもしれない、ということです。子どもたちに任せべきものとそうでないものをしっかりと区別して対処していく必要性について考えさせられました。他にも、子どもたちのあいさつや学校設備について等、貴重なご意見を頂戴しました。

今回頂いた貴重なご意見を、今後の学校経営に生かしてまいります。